Rotary 世界に希望を生み出そう

Weekly Bulletin Vol.68 No.20　2023–2024　RI会長 ゴードンR.マッキナリー　泉大津ロータリークラブ（創立1956.5.4）

週報 第3228回

会　長　上田　秀朗　副会長　渡辺　万寿
幹　事　西田　佳郎　SAA　西端　政博

例会場　ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL　0725-20-1121
例会日時　毎週金曜日 12：30～13：30

事務局　〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500　FAX.0725-21-9501
メールアドレス　info@izumiotsu-rc.org
ホームページ　http://izumiotsu-rc.org

今週の例会（2023年12月16日）　第3228回

■ プログラム

クリスマス例会

■ 次週のプログラム

12月22日：卓話担当　丹農　秀知　会員

■ 今後の予定

・12月29日：定款の規定により例会休会
・1月5日：定款の規定により例会休会

■ 祝　誕生日

中　透（16日）
八木　秀富（19日）

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

聖夜

きよしこの夜　星はひかり
すくいの御子は　御母の胸に
眠りたもう　夢やすく

■ 先週の例会

会長の時間　　上田 秀朗　会長

皆さんこんにちは、今日の会長の時間、新しい試みをしたいと思います。何をするかって、You Tubeを話の中に取り込みます。こういった手法はEクラブでは普通に行われています。私は、通常クラブ、Eクラブの区別なく、便利なものはなんでも活用すべきだと思っています。

前置きはさておき、今日も元気の出るお話をしたいと思います。年末も近づいてまいりましたので、カレンダー、暦にまつわるお話です。時は江戸時代、四代徳川将軍、綱吉の治世、だんだん会長の時間、講談のよ

うになってきましたが、お代はいりませんので、最後までお付き合いください。日本独自の暦（こよみ）を作り上げるという一大プロジェクトが持ち上がります。当時使われていた暦、宣明暦（せんみょうれき）は正確さを失い、ズレが生じ始めていました。宣明暦は平安時代の862年遣唐使が持ち帰ったもので、800年以上もそのまま使ってきたので、実態と会わなくなっていたのです。実際、2日ぐらいズレていたといわれています。大安のつもりが先勝であったりしたので、庶民にとっても切実な問題でした。

改暦の実行者として白羽の矢が立ったのが、碁打ちの名門に生まれた安井 算哲でありました。この時の様子を小説にしたのが、冲方丁（うぶかたとう）のベストセラー「天地明察」です。これは今から回覧させていただきます。皆さん、手に取ってみてください。この冲方丁の「天地明察」、2009年に発表後、吉川 英治賞、2010年本屋大賞を受賞、そして同年映画化されました。今日は映画の予告編だけをご覧いただきます。冒頭少し大きな音が出ますが、驚かないでください。西端SAA用意はよろしいですか？
それではVTRスタート！
（1分41秒動画再生）

これからただ今の動画に沿って物語のあらすじを説明したいと思います。予告編冒頭は主人公、岡田准一の安井 算哲です。囲碁の将軍家指南役にして、数学者、天文学者。そして松本 幸四郎の将軍後見人保科 正之に改暦を命じられます。新しい暦を作るというこの計画は、星や太陽の観測をもとに膨大な計算を必要としました。日本国中を文字通り観測、測量して歩くシーンが登場します。また和算の天才、市川猿之助の関 孝和の力も借ります。さらに本来は朝廷の司る改暦に幕府が口を出すという、朝廷の聖域への介入という問題もはらんできます。それでパトロンである中井 貴一の水戸 光圀の政治力も借りることとなります。これは、囲碁を通じた繋がりです。そして1684年12月5日、実に20年の歳月をかけ、初の日本人の手による貞享（じょうじゅ）暦が完成しました。

安井 算哲はこの功績により初の幕府天文方に任命されました。その後幕府による改暦は4回行われ、明治政府による1872年の欧米との統一を図るグレゴリオ暦への改暦へとつながり、今日に至っています。現在のカレンダーでも、大寒、小寒などの二十四節気、大安、仏滅などの六曜として旧暦が名残をとどめています。

本を読み終わりますと、あるいは映画を見終わりますと、一つの疑問に突き当たります。あれ、江戸時代って鎖国していたので、西洋の新しい技術や、知識が入ってこなくて、遅れていたんじゃなかったっけ？いやいや、実際は天下泰平で、戦のない期間が長く続いたので、読み、書き、そろばんが庶民にまでいきわたり、なんと識字率は80％であったといわれています。これはおそらく当時としては世界最高水準です。和算といった数学も一般庶民が日常生活で活用していました。学問だけでなく、技術においても、東芝の始祖の田中 久重の万年時計、国友 一貫斉の天体望遠鏡、いずれも当時としては世界最高水準のものです。江戸時代の日本は、学問、技術の面でも決して遅れた国ではなく、むしろ独自に発展を遂げた「進んだ国」であったのです。

新興国の追い上げで、最近自信を無くしつつある日本ですが、そんな必要は全くありません。ものづくり日本、昨日、今日始まったわけではないのです。万博のキャラクターのように脈々と生き続けています。頑張ろう日本！まだまだ捨てたもんじゃない！
映画「天地明察」は、CS有料放送のTBSチャンネルで視聴できるようです。

参考文献
「江戸の科学技術は世界水準！ものづくり日本の原点を見直そう」
（国立科学博物館科学技術史グループ長　鈴木 一義）

以上で本日の会長の時間は終わります。

幹事報告

西田 佳郎　幹事

○本日皆様のテーブルに、ガバナー月信１２月号を配布させて頂いておりますので、ご一読のほどお願い致します。
○小林美術館より、冬季特別展のご案内がございましたので、お知らせさせて頂きます。
○来週の例会は、１２月１６日（土）午後６時より、大阪エクセルホテル東急にてクリスマス例会となっておりますので、お間違えの無いようよろしくお願い致します。ですので、来週１２月１５日（金）の例会はお休みとなっております。

委員会報告

○本日、テーブル抽選を行わせて頂きました。
１２月・１月とテーブル固定となりますので、よろしくお願い致します。

○本日例会終了後、親睦活動委員会をみやびの間で開催致しますので、委員会メンバーの皆さんよろしくお願いします。

（瀧谷　達　親睦活動委員長）

■ ビジター

なし

■ 出席報告　会員数44名　出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
12/8	36名	8名	―	81.82%
11/24	37名	7名	1名	86.36%

■ メークアップ

榎本（11/30 高師浜RC）

■ ニコニコ箱

・杉本さん、本日はよろしくお願いします（上田）
・杉本理事、本日はクラブフォーラム宜しくお願い致します（西田）
・杉本様、本日のクラブフォーラム宜しくお願い致します（西端）
・例会欠席のおわび（小野寺）
・早退のおわび（藤野）

ニコニコ箱合計	12,000円
累計	341,000円

先週のプログラム　クラブフォーラム「子供食堂」

杉本　憲一　青少年奉仕理事

子ども食堂とは

子供やその保護者および地域住民に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団欒を提供するための日本の社会活動。2010年代頃よりテレビなどマスメディアで多く報じられたことで動きが活発化し、「孤食」の解決、子供と大人たちの繋がりや地域のコミュニティの連携の有効な手段として、日本各地で同様の運動が急増している。NPO法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」などによると、2022年9月から2022年11月の調査では、7331か所ある。

子ども食堂は、運営者次第で様々な運営形態があり、参加費（料金）、開催頻度、メニューも食堂ごとに違いがあり、明確な定義があるわけではない。

強いて定義を述べるならば、「こどもが1人でも安心して来られる無料または低額の食堂」としており、地域でのネットワークを作ることを目指した全国ツアー「広がれ、こども食堂の輪!」ではそれに倣って「（困難を抱える家庭の）子どものための食堂だけでなく、たとえば高齢者の食事会に子どもが参加している場合なども『こども食堂』と広くとらえています」と述べている。

「子ども食堂」とは呼ばれていないものの、地域で子供の居場所を提供している団体が毎日食事を提供していたり、学習支援のための団体が学習の前後に食事を出したり、高齢者のための集まりの場を子供や子育て層に開放し、多世代が交流しながら食事をとったりするなど、実質的に子ども食堂と同等の役割を果たしているケースもある。

子ども食堂の誕生

名称として「子ども食堂」の名が用いられ始めたのは2012年(平成24年)とされ、東京都大田区の「気まぐれ八百屋だんだん」の一角に「こども食堂」が設置されたことが最初と考えられている。同店の店主である近藤博子は、歯科衛生士であると共に地域の居場所作りにも携わっており、仕事を通じて食事の偏りがちな子供たちの存在を知り、子ども食堂を開店したという、「子どもが1人でも入れると同時に、大人も入っていい場所」との意味で「こども食堂」と名付けたのだという。当時はまだ地道な活動ではあったが、口コミで徐々に活動が周囲に伝わり始めていた。近藤が無農薬野菜を中心に扱う八百屋を開業したのが2008年(平成20年)、学習塾講師を招いて子供の勉強を支援する「ワンコイン寺子屋」を併設したのが2009年(平成21年)。翌2010年(平成22年)、近隣小学校の副校長から「一人親で、給食以外の食事はバナナ一本という子供がいる」と聞いて心を傷め、ボランティア活動の仲間らと検討・準備を経て、2011年(平成23年)8月に現在の「子ども食堂」を開いた。

開催頻度・時間帯

開催頻度は月1回、または月2回が多く、運営側からも「月1回のペースなら、気負わず無理なく、長く続けられる」との声がある。次いで月に2回から3回、週1回と続き、週5日以上開催する食堂も多い。

時間帯は平日夜が多いが、登校前の朝食の時間帯や、給食のない週末の昼食時、長期休暇期間を中心として取り組む食堂、夏季休暇や冬季休暇に限定して営業している食堂もある。

参加費(料金)

参加費(料金)は、子供については「お手伝い」などの条件付きを含めて無料としているところが半数以上であり、有料の場合は100円から300円のところが多い。保護者など大人については子供より割高に設定されている場合が多い。子供・大人共に完全無料のところもある。

また店によっては、金銭苦の人が無理しないよう、大人は所持額に応じて自分で支払額を決めることができ、所持額に余裕のある人は寄付を兼ねて多めに支払うことのできる仕組みを取り入れている場所もある。

なお、多くの子ども食堂は、営利目的でなくボランティア活動であることを明確にするため、「料金」ではなく「参加費」と呼んでいる。

食事内容

提供する食事の内容は、農業が盛んな地域のために野菜中心の料理、バランスのとれた料理、プロの料理人によるこだわった料理、バイキング料理やビュッフェ、店によってさまざまである。

健康と食の安全性などの考慮から、有機農業による野菜など、化学調味料不使用、動物性食材不使用、食物アレルギー対策を謳った食堂もある。栄養バランスだけでなく店によっては、胃を満足させるために月1回は肉料理の日を設けたり、多世代が集う店では定期的にカレーライスなどの多世代に好まれるメニューを、正月には餅、雑煮、おせちを振る舞ったりといった工夫もある。

食事以外の活動

食事以外にも、宿題の時間、自炊の力をつけるために子供も調理に参加するなどの活動、地域住民との交流の場を組合せていることもある。遊び場として提供されていることもある。大人たちが遊びを提供しなくても、子供たちが自然に遊び始めるところもある。また、無料学習塾を兼ねている所もある。

運営・費用面として

人員、費用、食材に関しては、子ども食堂がマスメディアで取り上げられたことで、生産者からの直接の食材提供、調理のボランティア、資金の寄付など協力が増加し始めている。

運営者

運営は、NPO法人や民間団体、住民による有志、個人などによる。専門家が運営に携わるところもあるが、ボランティアによるものが大部分であり、食事を提供するという敷居の低さがボランティアによる運営のしやすさにも繋がっている。

こども食堂ネットワークの事務局担当者によれば、子育てが一段落した50歳代から60歳代の主婦たちが活動の中心を担っているという。ボランティアの人員は、地元の主婦たちのほか、調理学校の学生、家政学を学ぶ学生が調理を手伝ったり、大学生が子供たちの遊び相手をしているところ、中には子供のボランティアがいるところもある。これから子ども食堂を始めようと思っている人々が、見学も兼ねてボランティアで参加しているケースも多い。子供を連れて来店していた母親が、その場の楽しさのあまり、スタッフに参加したケースもある。

一般人以外による運営としては、小学校のPTAが運営に加わっているところや、地元の医師が顧問を務めたり、地元の社会福祉法人の職員がボランティアで送迎の車を走らせているケースがある。学校を開催場所とし、その校長や教職員が参加して子供の相手や保護者の話し相手を務めている店もある。一方、ボランティアを募っている子供食堂では、ボランティアへの謝礼、交通費、ボランティアの食事代が掛かる場合もあります。多くの子供食堂ではボランティアへの経費が一つの課題でもあります。

費用

運営に要する費用は、主に寄付や持ち出しなどによって賄われている。インターネット上のウェブサイトやFacebookで活動の様子を伝えた上で寄付を募るケースも多く、クラウドファンディングで資金を募っている食堂もある。

公的補助や民間企業の助成金などでも賄われており、モデル事業として運営団体に対して助成金を贈っている県、地域の福祉団体が費用の助成、運営への助言や支援を行なっている県もある。事業化が手軽と言う理由で参入する自治体や団体も多い。わが市泉大津市では泉大津市こども夢づくり(こどもの居場所づくり)事業費補助金交付として、事業開始経費として開始初年度に10万円、運営費として年間24万円支給されます。ただし、事業報告書、収支決算書等の提出が必要です。

食堂に通う子供たちが募金箱を作って、コミュニティセンターや地域の医院に置いたり、運営者がオリジナルの文房具などを販売して運営の足しにしたり、高齢者たちによるバザーの収益金が寄付されたりするケースもある。

先月11月12日に堺市内のライオンズクラブ6団体主催、堺市、堺市社会福祉協議会の後援で、「子ども食堂支援FES in堺 霜月祭」が開催されました。堺市内で活動する約100か所の子ども食堂を支援するために、堺市役所前、および合同庁舎前で、8台のキッチンカーの他、日用品のバザーや子供向けのアクセサリー作りのワークショップ、美味しいハイボール屋台も出店し、メインステージでは堺市で活動するキッズダンスチームによる舞台発表や大阪公立大学のお笑いサークルによる漫才ライブ、音頭取りの音乃家による江州音頭、河内音頭の舞台などなど、大人も子供も楽しめるコンテンツ盛りだくさんで、子ども食堂の活動の啓発をし、主催者側の売り上げを全額堺市社会福祉協議会を通じて子ども食堂に寄付するというイベントです。

食材

食材の調達方法は、ごく普通に近隣のスーパーマーケットや商店街などで購入する場合もあれば、寄付、余り物の持ち寄り、傷や変形のために商品にならないものの譲り受けなど、様々である。フードバンクから食材を仕入れることもある。

農業協同組合（JA）の支店が地域貢献活動として米や野菜を提供したり、畑作りのボランティア団体や、趣味の家庭菜園で野菜を多く作り過ぎてしまった住民が野菜を提供したりしているケースもある。

場所

場所は、公民館や児童館など公的施設のほか、事務所、空き店舗、民家、飲食店、医療機関や介護施設の交流スペース、寺などが用いられている。「プロが作るご馳走を食べさせたい」として、喫茶店が定休日に開催しているところもある。

利用者たちからの声

来店した子供たちからは「みんなで食事ができて楽しい」「嫌いな物でも、みんなで食べると不思議と食べられる」「友達と遊んだ後、そのまま一緒に晩ご飯を食べられて楽しい」、孤食になりがちな子供からは「家に食べ物がないときもあるので嬉しい」、子供と共に来店した母親からは「子供の食が進む」「自分たちだけではこんなに品数は作れない、野菜もとれない」などの感想が寄せられている。

また食事以外に対しても、子供たちからは「面白い大人がいるので毎回楽しみ」「大きな家族ができたよう」、大人たちからは「子供がのびのびと遊ぶことができ、ストレス発散の場になる」「ほかの人たちと話すきっかけになる」「毎日がバタバタしていて、ここに来て心が落ち着いた」などの感想も寄せられている。母親同士が仲良くなり、情報交換の場も生まれている。運営側では、子ども食堂を手伝うことが生きがいと語る高齢の女性もいる。小学生の子供と高齢の男性が、共通の趣味の話題で盛り上がっているといった事例もある。

専門家による分析

北海道札幌市の子ども食堂「kaokao」の運営に携わる政治学者の吉田徹は、子ども食堂の対象になる子供は貧困家庭のみならず、富裕であっても一緒に食べる家族がいない「孤食」、いつも同じ物を食べる「固食」、一種類しか食べ物がない「個食」などニーズは多様であり、こうした様々な「こしょく」の解消が、子供の健康や教育環境の改善、子育ての問題にも繋がるとしている。また、子ども食堂には補助金や様々な制限など、行政が介入していないからこそ柔軟に運営できている面があるとしている。

子供の貧困対策や食品ロス問題などに取り組む政治家の竹谷とし子は、子ども食堂は栄養管理と同時に、多くの人々が携わることで子供の孤立を防ぎ、「食」を通じて子供たちを支援する大きな機能があるとしている。

また、子供と地域の大人たちが共に食事をすることで、子供と大人たちとの交流や情報交換が増えて地域のネットワーク形成に繋がる点や、子供たちの来店を通じて、子供の貧困の実態を地域住民たちが認識するなどの点で、副次的な効果も生まれているとの声もある。前述のように商品にならない食材を子ども食堂で譲り受けることにより、食品ロスの解決につながっているとの評価もある。

貧困問題による誤解

子ども食堂への出入りが、周囲から貧困家庭と見られかねないという懸念から、本当に貧困状態にある子供はこうした食堂を利用しにくいのではといった意見があり、実際にそうして出入りを敬遠する子供がいたとの報告もある。同様の理由で、特に女子は来店しにくいとの指摘もあり、実際に来客の男女の比率が8対2だったとの報告もある。群馬県太田市の子ども食堂でも、30人から40人の利用者を見込んでいたところが、実際の利用者は10人から20人程度であり、これも貧困世帯が対象とのイメージが広がっていることがその原因と見られている。

マスメディアによって子ども食堂のことが多く報じられたことで、子ども食堂イコール貧困対策というイメージが広がり過ぎ、来店しにくくなっている子供ができたとの指摘や、親が出入りを禁じるなどの状況が生まれていると危惧する声もある。前述の「気まぐれ八百屋だんだん こども食堂」も、マスメディアに取り上げられ始めた当初は、貧困対策としての視点からの報道が多かったという。子ども食堂の存在を知るには情報収集力を要し、足を運ぶには行動力や交通費を捻出する経済力も必要だが、貧困の最中にある人々にはそうした力がないとの指摘もある。児童虐待を受けている子どもが、親が発覚を恐れて行くことを禁じていると危惧する声もある。

「誰でも利用できる場所」としている子ども食堂には、「貧困や孤食など、本当に支援を必要とする子どもにどうすれば来てもらえるか」が共通の問題であり、「冬休み中に毎日開催したが、来てほしい子どもが1回しか来なかった」「地域の幼稚園の子供と保護者が1クラス丸ごと来店し、本当に来てほしかった子どもが来店を遠慮していた」「困っている親子というより、安く健康的な食事ができるから来ている普通の親子が多い」「夕食の手抜きを目的とした母親の来店が増えている」との声もある。

子ども食堂から子どもの貧困、貧困家庭、貧困対策のイメージを遠ざける例としては、店の名前に敢えて「子ども食堂」と名付けず、「子ども」だけを付けたり、「子ども」すら店

名に含めないところもある。また、店の名前はもちろん、活動内容自体も「子ども食堂」とは名乗らず、「こどものいばしょ」と謳っている場合もある。また、貧困家庭というレッテルを貼られることのないよう、利用対象を「地域住民全員」に設定している店もある。開設当初から「誰でも来店できる食堂」という概念を重視し、「恵まれない子どもたちのために」といった弱者支援のような態度をとらない店もある。高齢者や障害者にも立ち寄ってもらうため、名称を「地域食堂」にするケースもある。

自ら助けを求めにくい子供たちへの対策の一つとしては、東京都文京区で2017年10月から始められた「こども宅食」が挙げられる。これはLINEで申し込んだ利用者に対し、食材や加工食品などを自宅あてに直接配送するという、全国的に見ても前例のないもので、利用者から好評を博している。

場所の問題

子ども食堂の開催場所は、調理可能な場所であることはもちろん、子供が徒歩で通えることなどが条件に課せられており、これを子ども食堂の運営上で最大の課題とする意見もある。東京都足立区の子ども食堂では、自分も食堂を始めたいと言って相談に来るものの、場所の問題で行き詰っているとの声が聞かれる。

これまでに閉店を強いられた子ども食堂の一つには、バーとして用いられていた店舗を借りたため、コンロが少なく、椅子が高くて落ち着かず、行き帰りに車が必要で、駐車料金がかかるなどの声が寄せられていたケースもある。個人宅で開催している子ども食堂では、食事や調理のスペースにも限界があり、告知も届きにくく、子供が気楽に立ち寄ることもあまり期待できないとの声もある。

地域の飲食店で使用できる食事券を子供に配布し、各自協力店舗へ出かけてもらう方式もみられる。食事券は寄付を原資に発行され、券を使用された店舗は枚数に応じて後日、料金を受け取ることができる。類例として、自店で発行した食事券を来客に購入してもらい、子供に使用してもらうパターンもある。何れの方式も、既に地域にある飲食店を活用できるため「開催日数が少ない」「通常のこども食堂では心理的に入りづらい」「メニューが限定される」といったデメリットを解消できる利点があり、また気軽な寄付手段としても近年全国的な広まりをみせている。

衛生面

食事を提供する場である以上、食中毒などの衛生問題も懸念されている。どこか一つの食堂で食中毒が起きれば、子ども食堂全体の広がりに影響が及ぶ可能性も示唆されている。
通常の食堂では洗浄設備や計器類を整え、確認検査を受けての営業許可が必要だが、子ども食堂のような福祉目的の場合、許可は必要ないと判断されることが多いことも問題視されている。

参加者から、衛生面の配慮や保険についての質問が出ていたという。多くのこども食堂は何らかの保険に加入しているが、保険にまで手が回っていない食堂も存在していることを指摘している。

この課題の解決に向け、商品安全確保について研修会を実施し、衛生マニュアルを作成・配布することで、食材の扱いと調理の上で細心の注意を払っている食堂もある。調理担当者に検便を義務付け、生ものは一切提供せずに必ず加熱調理するなどを徹底している食堂もある。

資金の課題

運営資金もまた、課題の一つである。前述のように運営資金のための寄付を募ったものの、現実には運営資金の大半が店の代表者の個人負担となっており、組織の持続的拡大のために運営資金の確保が問題となっているケースもある。

その他の課題

子ども食堂の開催頻度は前述のように月に数度、週に数度程度であり、これによって子供の貧困の解決に繋がるかどうかといった批判も少なくない。「子どもの貧困対策」と謳い、寄付を募る子ども食堂が多いが、その程度の開催では、到底、貧困家庭の子どもを救うことはできないことは明白である。

実態としては貧困家庭は参加せず、子ども食堂関係者内で食事を行う、物資を分け合うなどの「身内のパーティー化」が見られるとの指摘もみられる。

シングルマザーと子供たちの生活のために活動する団体であるNPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」の理事長である赤石千衣子は、子ども食堂の取り組みを「素晴しい取り組み」と評価しながらも、「300万人いる相対的に貧困であるといわれる子供たちに何％がそこにつながれるのであろうか」と指摘している。

行政が子ども食堂登録制度等を設け、補助金の給付を行うことが多いが、子ども食堂内で食中毒や事故等のトラブルがあった場合、行政は指導、監督する立場にはなく無関係であるとしている。そのため、トラブルが生じた場合に相談できる監督官庁が無く、被害者が個別に民事訴訟を行うなどするしかないのが現状ある

フードバンクや企業から提供された食材や物資が、運営者に中抜きされる、転売される等の行為が確認されている。「子どもたちのために」と寄付された寄付金も運営団体の運営費として消費されるなど、『中抜き構造』の問題も指摘される。

泉大津市のこどもの居場所（こども食堂）について

こどもの居場所は、子どもたちが放課後などに食事や学習支援を通して、人とのつながりを感じ、安心して過ごせる場所です。居場所を必要とする子どもであれば誰でも集える場所なので、気軽に足を運んでみてください。

対象：市内在住の18歳未満のこども（保護者同伴可）

青少年奉仕委員会として

現在泉大津市には11か所の子供食堂が登録されており、3か所はこどもの学習支援、遊び場の提供で、8か所は食事を提供しております。各こども食堂に電話で参加人数を問い合わせたところ、全体では月1回開催がほとんどですが1回あたりの参加人数を合計しますと、こどもが230～250人、保護者が80人くらいです。

青少年奉仕委員会として、どのような形でこども食堂に応援できるか委員会で検討しております。